

危

六年

回数 6
筆順 ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌ ㇍ ㇎ ㇏ ㇐ ㇑ ㇒ ㇓ ㇔ ㇕ ㇖ ㇗ ㇘ ㇙ ㇚ ㇛ ㇜ ㇝ ㇞ ㇟ ㇠ ㇡ ㇢ ㇣ ㇤ ㇥ ㇦ ㇧ ㇨ ㇩ ㇪ ㇫ ㇬ ㇭ ㇮ ㇯ ㇰ ㇱ ㇲ ㇳ ㇴ ㇵ ㇶ ㇷ ㇸ ㇹ ㇺ ㇻ ㇼ ㇽ ㇾ ㇿ

あぶない・あやうい・いぶむ

威の立ち



「崖(山)」の上に「人」が「あぶない」かつこうをして立っており、崖の下にいる「人(人)」が、それを見て「あやぶんでいる」様子を表した字です。

「あぶない」という意味、「あやぶむ」という意味を表した字です。

「あぶない」(例)危険、危機、危急、危害。

「あやぶむ」(例)危惧。

また、「危峰」は、「危ない峰」という意味のことばですが、「高くそそり立つ峰」のことを言います。

使い方

▽ぼくはスリラー映画が大好きです。主人公が危地へ乗り込んで、危機一髪の所で助かる、などというのがおもしろくてたまりません。

▽わたしは初めて飛行機に乗りました。乗るとすぐ、スチュワーデスが、「危急の際には、救命胴衣をつけて下さい」と言って、救命胴衣のつけ方の説明をしてくれました。それを聞いて、ちよっとこわくなりましたが、飛行機は、それほど危険ではないそうです。

熟語例

▽危険(あぶないこと)。

▽危機(あぶない場面。「危機一髪」というのは、危険なことが、髪の毛一本ほどの、ごく近い所にある、という意味です)。

▽危急(非常に危険な状態が、すぐそばにせまっていること)。

▽危地(危ない場所や立場)。

▽危害(からだに及ぼす危険や損害。「あの人は乱暴な人だから、危害を加えられないようにしなければいけない」などというふうに、つかいます)。

机

六年

回数 6
筆順 ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌ ㇍ ㇎ ㇏ ㇐ ㇑ ㇒ ㇓ ㇔ ㇕ ㇖ ㇗ ㇘ ㇙ ㇚ ㇛ ㇜ ㇝ ㇞ ㇟ ㇠ ㇡ ㇢ ㇣ ㇤ ㇥ ㇦ ㇧ ㇨ ㇩ ㇪ ㇫ ㇬ ㇭ ㇮ ㇯ ㇰ ㇱ ㇲ ㇳ ㇴ ㇵ ㇶ ㇷ ㇸ ㇹ ㇺ ㇻ ㇼ ㇽ ㇾ ㇿ

机

威の立ち



「つくえ」の形を表した「几」と、「木」とを組み合わせて作った字です。

昔は、「几」が「つくえ」を表した字でした。机は、「つくえなどの家具を作る用材の木」を表した字で、もと「几木」と言っていたことばを、一字にまとめたものです。

しかし、今では、「用材の木」の意味には全く使われず、「つくえ」という意味に使われています。

使い方

▽わたしが今使っている机は、五年生になる時に買ったいただいたものです。小学校に入学する時に買ったいただいた机は小さくなったということで、買って下さったのです。

▽これはぼくには名案のつもりでしたが、お父さんには「机上の空論だな」と言われてしまいました。

熟語例

▽玉机(玉をちりばめた美しい机。「机」の美称として使われます。「玉案」とも言います。案も机のことです)。

▽机下(手紙のあて名の下に書く、相手を敬うことばです。「岡山田太郎様机下」「玉案下」という使い方もあります)。

▽机辺(机のそば)。

▽机上(机の上)。

▽机上の空論(実際に経験の無い者が、机の上で考え出した、役に立たない理論のことを言います)。

▽経机(お経をのせておく机のこと。お寺の本堂におかれてあります)。